

## 会 議 録

会議名 (審議会等名)	平成20年度 第6回 川西市社会教育委員の会		
事務局 (担当課)	教育振興部 社会教育室 (内線 3421)		
開催日時	平成20年11月26日(水) 10時1分～12時1分		
開催場所	川西市役所 2階 202会議室		
出席者	委員	生田議長、小柳副議長、後藤委員、佐道委員、眞田委員 関西委員、渡邊委員、足立委員 計8名	
	その他	鈴木学校支援地域本部コーディネーター	
	事務局	牛尾教育振興部長、後藤こども部長、幸田総務調整室長 仲学校教育室長、山川社会教育室長、渡瀬中央公民館長 横田中央公民館主幹、宮脇社会教育室主幹 計8名	
傍聴の可否	<input checked="" type="checkbox"/>	傍聴者数	0名
会議次第	1. 報告 (1) その他  2. 議題 (1) 年間テーマ 「地域教育の向上をめざした仕組づくり」  3. その他		
会議結果	別紙のとおり		

議長	第6回社会教育委員の会を開会する。
事務局	挨拶
事務局	公民館表彰受賞を報告
議長	<p>1. 報告</p> <p>(1) 阪神北地区社会教育委員協議会 第3回理事会について 平成20年10月23日(木) 午前10時～ 副議長より報告</p> <p>(2) 平成20年度兵庫県社会教育研究大会 平成20年11月20日(木) 11時～15時40分 議長より報告</p> <p>(3) 阪神北地区公民館運営審議会委員連絡協議会視察研修について 平成20年10月31日(金) 中央公民館長より報告</p>
議長	議題に入る。
事務局	本日は、学校支援地域本部のコーディネーターに出席してもらった。議論中でこうした話題のときは、ぜひ意見をいただきたい。資料も配布しているので参照していただきたい。
副議長	平成20年度社会教育委員の会第1回～5回まとめ(案)について説明。

議長	委員のご意見は。
A 委員	<p>コーディネーターの役割は大きい。これまでの活動、または内容について、どうつなげていくかである。</p>
C 委員	<p>コーディネーターを中心とした活動は、継続しやすいと思われる。</p> <p>地域ごとに違うように思える。地域の人たちがどれだけ学校に関心を抱いているか、どこまで学校に入り込んでいいのか、という点は、地域によって差があると思う。これらを理解してコーディネートしていただけたらいいのではないかと思う。</p>
E 委員	<p>教職員の立場、地域の立場のいずれで考えるかはむづかしい。様々な意見が出ることは良いことである。それらをまとめていくことにより、方向性が出ると思われる。</p> <p>問題自体が非常に難しいので、簡単にまとめるのは不可能である。これからは、学校現場から社会教育施設に関わる話題へと移行してきていく中で方向性がでるのではと思う。</p>
F 委員	<p>地域、あるいは、行政から支援を受けることで、学校としては教科指導に集中できるということに尽きる。要望・要求が最近よく学校に寄せられており、現場は頭を痛めている。しかし、これは学校に対する意識があるから要望が出されると理解している。それに学校がどう応えていくのが良いか考えている。教科指導に集中できる体制を作っていかなければと思う。</p>
議長	<p>今回は学校に焦点をしばっている。学校は地域の大きな核になる。しかしながら、国の施策に追随するという問題で、</p>

コーディネーター	<p>3年間しか予算がついて来ない。</p> <p>川西独自でやっていた「いきいき学校応援団」等も行政から学校に降りてきた事業である。厳しい予算の中で、こういった事業は、行政が手を引いてしまうと、中途半端になってしまいかねない。</p> <p>大切なのは地域の分析である。川西はコミュニティーが発達している。それぞれテーマに沿ったボランティア活動がなされている。これらの分析もしていかななくては、「ちゃんぽん」状態に陥ってしまうのではないかと危惧している。地域力の分析は欠かせない。</p> <p>懸念される点は、4年後に予算がなくてもやっていける地域力をつけないかならぬと思う。</p> <p>本日は、学校支援地域本部のコーディネーターの鈴木さんが出席されている。活動されている中での思い、進捗状況等、ご意見をお伺いしたい。</p> <p>本日社会教育委員の会で発言の場をいただき大変ありがたく感じる。先ほどまで、社会教育委員の会で話し合われた経過をお聞かせいただき、大変心強く思う。</p> <p>以前から地域でボランティア活動に携わっており、その中でボランティアの心が育つダイナミズムを体感してきた。自らも活動の喜びを知っている。コーディネーターとは、こうしたボランティアの輪を個人的に広げるのではなく、システムとして構築していく立場にあるということで、責任の大きさとまどいも感じている。</p> <p>これまで、「ボランティアは楽しく、自分の糧である」ということを教えられてきた。こんな自分と同じ思いの人たちの存在がみえはじめており、その方たちの力を借りて何とかシステムにしたいと思い、これまで活動に取り組んできた。</p> <p>手元に配布している「学校支援のボランティア登録の申請</p>
----------	--

	<p>書」を出すところまで来た。学校でサポートが欲しいという項目を、選びやすさに重きを置いて作成した。登録申請書は各幼・小・中学校、PTAでも配布している。カラー印刷した申請書を今後は公民館でも配布する予定である。</p> <p>正直に申し上げると、自分の住まいの近隣では、こんなことを誰にお願いしたらよいか、あるいは、かかわろうという思いがある人とつながりを作ることはできる。</p> <p>今は、川西南部と北部と担当を分けて現在2名のコーディネーターが担当しているが、それぞれの近隣の隣までは、そのつながりを拡大することはできる。しかし、その次の隣ということになると、難しい状況であるが、協力してもらえそうな方と話をしていこうとしており、その気になっていただければ、必ず広がっていくと考えている。</p>
議長	<p>3年後は予算がつかないのははっきりしているようだ。ご意見は。</p>
B委員	<p>今までに、いろんな人材を一括して、とりまとめているものと考えていた。しかし、この事業が一からはじめるものだと今回の話で理解した。</p>
コーディネーター	<p>既に「いきいき応援団」などに参加されているボランティアについての情報を集めている。</p>
B委員	<p>今までに進められた事業と連携しながらやっていくと理解していいのか。</p>
コーディネーター	<p>はい。</p>
B委員	<p>すでにある事業と互いに連携し活用しながら、進めていた</p>

	<p>だきたい。</p>
E 委員	<p>中体連（中学体育連盟）の取り決めでは、民間人は顧問にはなれなかったと記憶しているが、どうか。</p>
F 委員	<p>民間から協力いただいている指導者は、中体連からカード3枚が支給されて、それを首からかけていけばベンチに入ることが出来る。</p>
E 委員	<p>過去には、補助も認められないという決まりがあったのを思い出したからである。ボランティアは、ベンチにも入れない、指示もできない状況だった。</p> <p>ボランティアにとって指導者としての喜びを感じられるシステムがなければと思う。</p>
A 委員	<p>ボランティア募集について、回覧板を利用できないか。</p>
E 委員	<p>回覧板で情報を流すことは、現実は大変である。自治会の役員エリアで10軒あると、10年に1回役がまわってくる。年配の会員が多く、体力的に実働できず役を引き受ける事ができない。そのため、高齢者の中には自治会をやめようかという人が出てきている。</p>
A 委員	<p>地域によっては、簡易な仕事が多いと聞くが。</p>
E 委員	<p>自治会は仕事量が存外多いのである。その上、年配者も多い。</p>
A 委員	<p>年配者の行動力は、若い人たちより活発であるように思えるのだが。</p>

E 委員	<p>確実に、年配の会員が増えてきている。しかし、実働できる人は限られており、作業が特定の人に集中してしまう。若い世代は自治会に入っていないため、自治会の運営が立ち行かなくなっている現実もある。組織自体が崩れつつある懸念もある。こういった状況を理解していただかなければならない。</p>
A 委員	<p>自治会に若い人を集めるのは困難であることは理解している。しかし、自治会自身も、魅力あるものに変化しなければならないのではないか。</p>
議長	<p>だからこそ、自治会・地域を分析しなければならない。コーディネーターが特にこの事業にとって重要で、コーディネーターさんに一任してばかりではない。社会教育委員の会は、さまざまな支援・協力について考えていかなければいけない。</p> <p>伊丹市では、いい人がいても、責任問題・保障問題、加えて研修の問題などが伴ってくるので、登録する人の審査が必要と提言している。</p> <p>ボランティアに学校教育に関わるための基礎研修は、最小限、実施しなければならないであろう。</p>
事務局	<p>10～500人の自治会があり、多くの自治会すべてに説明して、回覧をお願いするのは難しい。</p> <p>当時、広報紙への掲載も考えたが、内容について県が具体的に答えられる状況でなかったため、市も問い合わせがあった場合、いろいろな質問に答えられる状態ではなかった。そのため、まず足元から固めて行きたいと考えた。学校、公民館、生涯学習センターとも話を進めてきており、来年2月1</p>

D 委員	<p>5 月号の「教育広報」に現在の学校支援地域本部事業の状況と方向性を特集し、21 年度につなげていこうとしている。事業の期間は3 年間であるが、学校でかかえているボランティアなどの人材バンクを作り、システムも残す方向でこの3 年間取り組んでいきたい。</p> <p>配布されている募集要項の中に、「採点補助」「特別な支援を要する児童・生徒のサポート」がある。実際、すぐに任せられるか疑問である。特別支援は、障害のあるお子さんの対応であり、個人情報の問題でもある。よって、サポートの仕方の研修をしてもらわなくてははいけない。また、守秘義務を厳守してもらわなければならない。研修の有無の問題はそこにある。</p> <p>24 校を2 名のコーディネーターさんにお任せするのは、無理があるように思われる。</p> <p>たとえば、学校と公民館とコーディネーターさんとの会を持つのはどうか。こうした事業に伴うサポーター会が必要と考える。コーディネーターが各学校、公民館に出向むくのは大変である。施設の長が集まるシステムづくり、そういう計画を立てることが、しくみ作りの一環となるのではないか。</p>
事務局	<p>研修については、そのとおりである。クラブ活動の指導者について、学校に紹介して面談してもらい、学校との約束事など、事前の下打ち合わせなどもしている。ボランティアの採用について、慎重な対応をとるようにしている。</p> <p>現在は、図書ボランティア、読み聞かせなどのボランティアの人達と話し合いをもち、研修会も予定している。</p> <p>「24 校を2 名で」という話が出たが、正式な情報ではないが、コーディネーターさんを増やすことも可能のようらしい。コーディネーターからも、協力者として候補となる人材</p>

議長	<p>の名前もあがっている。そういったことも、視野に入れながら検討していきたい。</p> <p>学校の方も、事業を理解していただいて、地域の公民館との連携、積極的に学校が公民館にアタックしていかなければならない。学校が積極的に情報をもとめて公民館とつながっていかなければならない。</p>
E 委員	<p>教職員とボランティアの意思がかみ合っていない印象を受ける。教員集団、地域集団もお互いに理解し合い、かみ合っていくように調整しなければならない。</p> <p>予算がついたから進めるというのではなくて、やらなければならないという意識が必要で、受け入れ体制を整えることも必要であろう。</p>
議長	<p>学校も地域も応援していかなければならない。その根本として、子どもたちの視点も大切にしなければならない。学校教育に対する応援団であるという自覚が必要だ。</p> <p>今後、1月・2月と2回の会で、一年間の議論をまとめた い。</p> <p>最後になったが、中央公民館長の意見をお願いしたい。</p> <p>また、もう一点、子育て・子育ての問題も取り組まなければならない。子育ては重要な課題である。</p>
事務局	<p>議長の話にもあったが、家庭教育がウエイトを置く時代ではないかと思う。その中で、公民館がどういう役割を果たしていけるかを議論していきたい。新しい方向性が見えれば、それにとまなう事業の企画の立案などに取り組むことも可能と思う。</p>

事務局	<p>こども部では、子育て支援に関わるボランティアの養成講座を行っている。また、教育委員会と協力して読み聞かせのボランティア養成講座も去年行った。地域の子育て支援も、この事業の大きな目玉である。地域の方の力を借りていかなければ、職員だけではまかないきれないものである。</p> <p>来年度、次世代育成支援行動計画を作成することとなり、参考にさせていただきたい。</p>
議長	<p>今後、阪神北の研究会が予定されている。これについて、発表を副議長にお願いすることにする。</p>
委員全員	<p>「了承」</p>
議長	<p>これで第6回社会教育委員の会を閉会する。</p>